



元氣とタイムリーな情報を提供する

# 五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2020年01月06日 第951号「週刊五十嵐レポート」

## いざ！維新！

昨年私にとって一番インパクトがあった人は、若宮正子氏。現在80歳を超え、なおICT(情報通信技術)エバンジェリスト(伝道師)として活躍。著書「老いてこそデジタルを」(1万年堂出版)より、「高齢者が『人手不足時代』という現状を理解することです。そのために、シニアが、今、若い人たちのためにしてあげることの一つが、『ITリテラシー(知識・能力)』を高めること」。シニアに限らず、ビジネスパーソンもITリテラシーを身につけることが生き残りに繋がる。

ITエンジニアたちには当たり前のことが中小企業の社長にとっては当たり前ではない。40~50人の社長にITに関するアンケートを実施した。社長、従業員がネット経由でスマホ、タブレット等で会社のメールアドレスに届いたメールをいつでも確認できるか。社長、従業員のスケジュールをネット経由でスマホ、タブレット等で確認できるか。一部の会社ではできていたが、大半の中小企業ではできていなかった。(これが現実)。

IT活用のキーワードは、生産性と省力化。(結果的には時間の短縮)

縫製会社の話。メイドインジャパンを作り、自社ブランドやOEM生産をしている。今新たな実験をしている。人を複数回写真を撮り、3D・CAD(外国製)で立体画像を作り出し、そこから2D・CADに移行して、パターンを作り(服のベースになるもの)、IOT経由、工場ですぐ生産が可能になる。但し現在は寸法が微妙に合わない。ここに人(アナログの技術)を介する。試行錯誤が続く。ここに人を介しなくてもいい状態になれば、ジャストインタイムで商品が出来る上がる。アパレル業界は、市場規模は縮小しているが、服の生産量は増えている。そのため大手は過剰の不良在庫が発生、業績不振の原因になっている。(常に大量生産、大量在庫のため、バーゲンが常態化)。縫製会社の試みは、多品種小ロット生産を可能に。大手も不良在庫に悩まなくなるかも。

これができるのもデジタル技術と通信技術の進化のおかげ。

時代は、幕末から維新へ。時代が大きく動き出している。誰が徳川幕府か。維新へ行くのは誰か。2020年は面白い時代の幕開けになる。(維新は中国の殷王朝の初代の王・湯王の言葉より引用したとのこと)

ちょっと  
変わる出来事

新札の1万円は渋沢栄一。2021年の大河ドラマの主人公も渋沢栄一。日本資本主義の父と言われ、「論語と算盤」は有名。それで「論語と算盤」(致知出版)を読んできた。

「ソロバン(カネ儲け)は『論語』(道徳)によって上手くいく。同時に『論語』(道徳)はソロバン(カネ儲け)によって、本当の意味で世の中を潤していくことができる。『論語』とソロバンは、一見かけ離れているもののようで、実は非常に近いものなのだ」

「世の中が前に進むには、必ず大きな欲望がなければいけない。利殖を図ることが十分でなければ、決して社会は進歩しない。また、ただ上っ面の論理を並べて、見せかけだけの繁栄を望むような国民に任せていては、決して真理に到達できない」

「単純に言えば『財産を殖やす』という任務。これが上手くいかなければ、国の『富』をなすことはできません。その『富』をなす根拠として、仁義・道徳といった正しい道理がなければならない」

私は今年で60歳。渋沢栄一が言っていることがすんなり入るようになった。



一口メモ  
知識

## 解決できないことは何ひとつない

すべてのものごとは、起こるべくして起こるのです。  
ところが自我は、ものごとを「起こさせよう」とか、  
「止めさせよう」とします。そこに問題が起きるのです。

自分という主観を消してみれば、ものごとを客観的にみえてくるのです。そこにあるのは、ただ行為だけですから、何のこともなく整理整頓できます。

客観的になった人にとっては、解決できないことは何ひとつないのです。だから人は主観を捨てて、客観的になるべきです。

「ブッダの教え一日一話」(PHP研究所/アルボムッレ・スマナサーラ)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時
  - 「戦略社長塾東京」小岩校 土曜隔週(第2・第4) 午後2時~6時
  - 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。
- ㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5  
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

